

午前11時15分再開

○議長（福田俊史君）再開いたします。

引き続き、一般質問並びに議案に対する質疑を行っていただきます。

3番前住孝行議員

○3番（前住孝行君）（登壇・演壇、拍手）皆さん、こんにちは。八頭郡選出、鳥取県議会議員の前住孝行です。

先日、30歳を迎えられた女性の方と結婚観について、セクハラにならないように気をつけながら、話を聞かせていただきました。結婚はあまり考えておられなくて、今は推し活に夢中だそうです。男性芸能人だと思われそうですが、そのライブに行ったり、グッズを買ったりすることにお金をかけているそうで、そのために仕事を頑張っているというふうに言っておられました。

また、その世代を子供に持つ母親の方にも話を聞く機会がありました。うちの子も同じで、コンサートに行くために服やら何やらネットで買って、宅配の受け取りがもうせわしない、結婚をするのだろうかというふうに言われていました。

今や推し活の市場規模は3.5兆円で、1,400万人というふうに、年々増加傾向にあると言われていきます。そのことも納得させられました。このことが婚姻数の減少を招いているとも考えられますが、逆転の発想で、このことを利用して鳥取関連の推し活コミュニティ婚活も有効ではないかと考えさせられたところであります。

昨年の11月21日に主権者教育の一環で、鳥取県議会「G1プロジェクト」と題して、倉吉総合産業高等学校の皆さんと意見交換をさせていただく際に、推し議員を決めて言動をチェックし続けてくださいと、自分への戒めも含めながら呼びかけさせていただきました。私も推し文化に乗っていきけるように、日々研さんを積んでいきたいと考えております。

前置きが長くなりましたが、それでは、河上議員の代表質問の追及をする形になりましたが、通告しておりますので、私なりの視点で質問していきたいと思います。

令和15年度国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会についてです。

本県では、8年後の令和15年度に、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会、以下、国ス

ポ・全障スポと略させていただきますが、開催予定となっています。本年3月に、今後のスポーツ大会の在り方を考える有識者会議から日本スポーツ協会に対して、開催時期及び開催期間を柔軟に決定することで、複数の競技を同一施設で時期をずらして実施することのほか、効率的に運営をすることなど、全国知事会も加わるタスクフォースが設置され、具体的な検討が開始される中、本県においてはその動きを注視しつつ、準備を進められていることと思います。つきましては、現時点の状況や今後の方向性について、質問していきたいと思います。

まずは、市町村との連携についてです。

40年前のわかとり国体では、夏季大会が3市町で、秋季大会が26市町村で開催されました。なるべく多くの市町村で開催していただくのであれば、市町村との連携が不可欠であり、大会の成功に大きく影響するものだと考えます。また、開催種目についても、どの市町村で開催可能かというのは各市町村の状況もありますので、市町村長の意見聴取が重要になってきます。早めに開催種目が決まれば、対応できる市町村も増えてくるのではないかと思います。

そこで、令和5年6月に設立された鳥取県準備委員会において、市町村長との意見交換をどのように進めていこうとされているのか。また、競技団体との調整も必要になってくると考えますが、開催種目について、どのように決定していくのか、いつ頃決められるのか、知事にお伺いします。

ねりんピックはばたけ鳥取大会では、54万人余りの参加人数と、130億円の経済効果があったということで、好評のうちに開催され、その後の観光振興にもつながっており、喜ばしく感じています。

一方、悪天候の中での開会式の運営や、大会期間中における運営の改善点があったことと思います。こうした点をしっかりと洗い出し、様々な状況を想定した運営にしていかなくはいけないと考えます。ねりんピック開会式に参加させていただきましたが、あいにくの天候となり、予定していた陸上競技場は使えず、県民体育館での開催となりました。その日のために東部の高校生吹奏楽連合チームは練習を積み重ね、雨天時用の音声録音もされましたが、当日5時に準備して、6時

の会場変更の連絡を受け、残念ながら当日出番もなかった高校生や、逆に急遽出演を依頼された学校もあったというお話も聞きました。

開会式会場にお招きいただき、会場内をいろいろと拝見させていただきましたが、県民体育館の2階ギャラリーが丸ごと空いていたので、そこで高校生連合の演奏はできなかったのかと思いました。天候も含めた様々な状況を想定した大会運営について、知事に所見を伺います。

今回のねりんピックでは、様々な大会グッズを頂きました。囲碁会場を訪れたときに頂いたコースターや缶バッジ、ボールペンなどなど、2～3年前からこれだけのものが手元にあれば、より県民の機運も盛り上がっていったのではないかと考えます。今年度に入ってから、缶バッジを事務所に置いていると、サッカーをしている孫がいるので、もらってもいいかといって持って帰られた方がありました。競技団体に協力していただいている競技運営が第一となり、するスポーツがメインになりがちですが、見るスポーツ、支えるスポーツもスポーツ庁の第3期スポーツ基本計画で目指されているところで、大会前から取り組んでいかなければいけないと感じています。

ついては、県民の機運醸成について、ねりんピックの改善点を踏まえながら、どのように高めていくのか、知事に所見を伺います。

さらに、民間企業や学校との連携も様々な面で必要になってくると考えます。わかとり国体のときは、選手や指導者を教員として受け入れることも多くされていました。教員の成り手不足の現在において、よい指導者を採用していくこともしかり、また、議場で知事の答弁にもありましたように、企業で選手や指導者を雇用していただくことも推進していくことも重要だと考えます。

働き方改革を進めている本県においても、働きがい、生きがいにつながる雇用になると考えますが、大会成功に向けて県内企業とのウィン・ウィンとなるような連携についての所見を知事に、選手・指導者としての教員採用について教育長に所見を伺いまして、壇上の質問とさせていただきます。

○議長（福田俊史君）答弁を求めます。

平井知事

○知事（平井伸治君）（登壇・演壇）前住議員か

ら一般質問をいただきました。

まず、最近の推し活等の若い方々のトレンド、それにつきまして、例えば推し議員のようなこともいろいろとこれから取り組んでいくのもいいかなと。それで、また、婚活などにも活用できないかなというお話がございました。

今、多分推し活ブームということが起きているのだと思います。これは若い女性を中心に、恐らくかなりの広がりがあるここ10年くらいで出てきたのではないかなと思いますが、これは世界中が多分そうかもしれません。日本のJポップの皆さんが、海外であれだけ熱狂的に受け入れられる。それはほんの5年、10年前には考えられなかったことでありまして、それを裏打ちするのが多分インターネットの存在だと思います。SNSでどんどん広がっていくわけですね。それで、これは私いいなと思うと、そうすると、また次から次へとその動画だとか、あるいはメッセージ、様々なニュースが出てくる。そして、そうしたところに、どうもコミュニティがあるようでありまして、推し活の皆さんのグループが、SNSなどで一定程度、組織化されていて、何か情報があると、わあっとそれが自然に拡散していく。このパワーは無視できないものに今、なり始めているのではないかなというふうに思います。

私も子供らは全然結婚する気配もなく、かといって推し活をしているわけでもなく、どちらかというとコミケとか、そういうようなことかもしれません。そういうオタク文化と以前は言われたけれども、それが言わば空気や水のように普通になってきているのが今の世代だと理解すべきであって、ではそれを前提として、例えば先ほど婚活もそれに絡めてやるというのは、一つのアイデアかもしれません。

ただ、うまく乗ってくるかなと。つまり、多分、推し活をしている女性と男性とでは、ちょっと推し活のテーマが違うので、例えば鉄道みたいなどころですり合ってくるのは割と男性のほうが多そうですし、あるいは先般も私ども、「Free!」のイベントがございまして、岩美町が結構いい名所になりました。私も実はそこのステージのほうで、コンサートのステージに上がったのですが、それがわあっと拡散するのですよね。当時は画像がないですから、画像なしで、何か平井がこんな

ことやってみたいたいのがすごい勢いで広がっていくのですが、そういうのはやはり「Free!」のキャラクターに絡んでいるわけですね。

そういうものをうまく使うことでトレンドをつくっていく。少なくとも婚活はともかく、情報発信だとかにはこういうものは使えるのではないかな。ですから、私どもも万博のSNSのマークといいますか、シンボル、そのエンブレムとしては、かつてのまんが王国のものをそのまま使うようにちょっと事務局のほうにお願いをしたわけです。これを見るだけで、そのファンが見てくれますので、ですから、そうした意味で、やはりこういうのはばかにできないのかなというふうに思います。

ですから、情報発信の機能として、この推し活のタイミングというのは大事であります。我々は、その意味では「名探偵コナン」については夏祭りを毎年やっているのですが、これは年々加熱してきています。その後のいろんなトレンドを見ていても、非常に鳥取に対する愛着が広まるのですね。このたびの「Free!」もそうでした。また、最近、鬼太郎の関係でも「ゲゲゲの謎」というのがあって、これが恐らくコナンと割と重なった層で推し活を呼んでいるのですね。ですから、そうした意味で、こういうような一つのトレンドを情報発信や、あるいは地域おこしとして素材に考えることは理にかなっているかなというふうに思います。

ちなみに、私も5～6年前か、ちょっと驚いたことがあったのですが、智頭の女性の言わば起業家の方が、木をモチーフにしているんなお土産物を作る、あるいはTシャツを作るというときに、面会したいというのですが、平井の顔を使わせてくれと。それで今、何か平井知事グッズというのが出回っているのですよね。これが土産物屋で売っているのです。それが時々バズってしまっていて、実は、ああ、こんなもの売れるのかなとそのときは思いましたし、売れなかったら私は申し訳ないなと思って許諾したのですが、絶対売れますと、その女性は言うのですね。それで、実際に売り始めています。だから、こういうことはやはり起こるのだと思うのです。

こういう推し活的な感じで、実は政治ムーブメントも今、動いていて、恐らくは今、国民民主党

なども急に上がって今、少し落ち始めていますけれども、そういうSNS系統の力というのはやはり大きくて、この辺はやはり我々としてもしっかり心得るべきかなと思います。

次に、国民スポーツ大会につきましてお尋ねがございました。

私ども、令和15年に国民スポーツ大会、また障害者の全国のスポーツ大会を開催することになり、今着々と準備を進めてきているところであります。ただ、ここに来て、我々としてちょっと配慮をしなければいけないことは、国全体でこの国民スポーツ大会の在り方の見直し論が佳境に入っているということでもあります。その中で、既に見直しの方向性が昨年度末に全国知事会も入る検討委員会のほうで出されました。

これに基づき、今月に入って、ワーキングチームが組織されることになりました。実はまだどういうメンバーで、どういうふうに進めるということも正直分かりません。ただ、これは国民スポーツ大会の委員会の下に置かれることになっていきます。ここで具体的な議論を今後やっていくことになると思うのですが、例えば競技種目をどうするか。それから、その会期、今11日間ですけれども、3月に出された前の報告の中でも、これは見直すべきものではないかというふうに言われています。遠藤会長さんという日本スポーツ協会の会長さんは、通年でやってもいいではないかと、私どもが要請活動に行ったときもおっしゃってしまっていて、ただ、これに正直あまり開催地としてはやりにくいということもあるのか、必ずしもこれで同調している感じでもないのですけれども、ただ、いずれにせよ会期についてはかなり緩やかになる。緩やかになればなるほど、分散化、分散して全市町村で開催するというインパクトは収まるわけですよ。できるところがやればいいと、できる競技場でやればいいということになってくる可能性が出てくるわけです。

施設整備につきまして、その施設整備はどの基準でやるかというのが、これがフレキシブルに考えるべきだという方向性になり始めています。審判団につきましては、審判は競技団体で全部出してもいいのではないかな。今まで何億円もかけて全国から呼び集めていましたけれども、それがなくなるかもしれない。こういうようなことがいろ

いる実是有りまして、正直ちょっと見通しが利きづらくなっています。

市町村とお話を深めていきたいのですが、ただ、その前提として、市町村の実情とフィットしたプランづくりというのは、この一連の国全体の検討と、実はリンクして有まして、これの状況を見ながら折衝を本格化させることになるのかなと思っています。

実は令和15年開催の10年前、令和5年度に、まずは立ち上げて動こうとして、それで各市町村回りを事務局ベースでさせていただきました。そして、一つの傾向としては、あまり積極的でないという傾向であります。やはり小さな人口規模のところなどでは、そうしたことに取掛かりづらい。正式種目は勘弁してくれみたいな、そういう反応というのは少なからずありました。

ですから、今の国のほうの検討状況によって、具体的に、現実的に、ではこういうことやりませんかという競技をすることができかどうかですね。ただ、今のままいくと、全部いろんな形でやっていかなければいけない。それは一つの市町村に過大な負担をかけるわけにもいけないので、みんなで分担してやりましょうみたいな話をしなければいけないのですが、どうもその圧力が今、弱まりつつ有まして、これを見定めた上で、皆さんが非常に気持ちよく協力していけるような、そういう枠組みを考えていければと思っています。

期限の話が有りましたが、新年度が一つの大きな山になります。幸か不幸か、このタイミングでなされていることは、我々はまだ動ける余地が十分あるということです。再来年度のちょうど今頃に国のほうに申請を出す、これが最終期限であります。その前年度、再来年度に中央団体などいろいろなところを見に来て確定していくというようなことが出てくるのですが、来年度はそういう市町村選りだとか、いろんなことをやるまだ余裕のある時期が1年間あるということですね。この間で取りまとめを図っていくのかなという感覚であります。

ねりんピックの総括をした上で、今後どう生かしていくのかにつきましては、これはスポーツ振興局のほうから詳細お話を申し上げたいと思います。

そして、企業との関係であります。今も実は

企業とウィン・ウィンの関係での人材育成を始めています。例えば今、女子のバドミントンが本県でもクローズアップされていますけれども、そのチーム、Cheerful鳥取がこうしたところを支えていく。そういう意味で、辻田選手とか、そうした選手がいっぱいいますが、こういう選手を実はLIMNO、あるいはNKC、旧の日本海信販とか、こういうところで抱えていただいているんですね。これはそうした事業を実はつくっています。

また、例えばセーリングでも、次のオリンピックを狙うぞというタイプの小泉選手だとか松尾選手だとか、そうした方は県のスポーツ協会のほうで雇用する形で抱えているということになっています。このようなことを実は今もう始めていますし、ある意味スポーツでの移住・定住ということにもなればというふうに思っているところで有まして、そうしたことは既にスタートをしながらというふうに御理解をいただきたいと思います。

それで、ねりんピックの総括ということですが、おっしゃるように、開会式はいろいろ有りました。すったもんだ、実は舞台裏はございました。その日の天候に左右されるという屋外競技場でのもとの設定がゆえに、課題もあったのだと思います。私も近づいたときに、これは雨が降ったらどうするのというのを、実は空模様がそろそろ見えてきたので申し上げたのですけれども、結構職員の皆さんは、当時は自信を持って、雨は降りませんとおっしゃっていました。本当に大丈夫なのかと。いや、でもこの空模様だと直撃されかねないのではないかと。いや、でも過去降ったことはないのですよとか、これが実はうそだったことが後でばれたのですけれども、たしか降ったことも有りました。

いずれにせよ、そんなことが舞台裏でございまして、それで急遽、雨対策を直前に始めたのですね。ただ、そこが十分であったかどうかということはあると思います。当日の朝になりまして、今度は全部やめるかのごとき動きになったので、私は、議員と一緒にすけれども、その開会式まで一生懸命、準備された子供たちやら、いろんな方がいるので、できる限りそのスペースの中で再現したらどうか、体育館も使えるではないかというようなことを申し上げたのです。

ただ、セキュリティの関係で、2階席は使えないとか、いろいろ当時、割と突っ込んだ議論をしました。でも、今から考えると、本当にセキュリティで2階を使えないのかなというのは、私はいまだにちょっと実は疑問もありまして、いろんなことをもっと早めに準備をして、それで想定をしてということであったのかかもしれません。ねんりんピックは比較的融通が利く大会だったと思います。

ただ、国民スポーツ大会は重みのある大会でございまして、そう簡単に直前に動かしたり、当日の空模様で変えたりということがやりにくいものであるから、次の令和15年に向けては、しっかりと考えを生かして、総括を生かして、考えをまとめていく必要があるかなと思っております。

実は今、群馬県だとか青森県だとか奈良県などは、既に開会式の屋内開催にしようとかいうように動いております。いろいろと各県の先例がこれからできてくると思うのですよね。そういうのを見ながら、そうした私たちの令和15年の本番に向けたスキームというのをこれから数年かけてしっかりと固めていけばいいのかなというふうに思っております。

また、おもてなしにつきましては、議員もお気づきだったと思いますが、結構その支えるスポーツの支える側の皆さんも非常に楽しみながら、このねんりんピックに協力をしていただけたと思います。なかんずく子供たちはのぼり旗を作ったり、メッセージを書いたり、そうしたことが選手の心にも響きましたし、非常にいい経験を本人たちもしたのではないかと考えています。ボランティアの募集も順調にいきましたし、協賛企業は前回の愛媛だとか、そうした過去の大会を圧倒的に上回る規模で協賛企業も得られておりました。こういう経験も令和15年に向けて総括をしながら、生かしてまいりたいと思います。

○議長（福田俊史君）田中スポーツ振興局長

○スポーツ振興局長（田中将君）私からは、悪天候な様々な状況を想定した大会運営についてと、県民の機運醸成について、補足の答弁をさせていただきます。

ねんりんピック鳥取大会の開会式となりました昨年10月19日、これは前日21時21分に雷注意報が発令されておまして、翌日の当日4時17分にも

雷注意報が更新されておりました。雷を伴う風雨など悪天候となりまして、今年の4月10日だったのでけれども、奈良県のほうでサッカー部の部活動中に落雷によって6名が病院搬送されるというような事案もございまして、参加者の安全を第一に考えた結果、苦渋の決断となりましたが、午前6時過ぎに会場を陸上競技場から急遽変更して、県民体育館を活用することになりました。

この変更によりまして、出場機会がなくなる児童生徒、団体の方々に可能な限り出演いただけるよう式典運営者と最後まで調整をさせていただきまして、式典前のアトラクションでは和太鼓とか、健康体操の皆様、メインアトラクションでは鳥の劇場の皆様に急遽、出演者のフォーメーション等を変更いただき、披露をいただきました。残念ながら荒天に伴いまして、式典の規模を大幅に縮小したこと、体育館内のスペースに限界があったことなど、大規模な式典、音楽隊の皆様には演奏を断念するしかなく、事前に御理解はいただいていたわけですが、当日いろいろな混乱が生じたことについて、改めておわびを申し上げたいと思います。

これらの反省点として、悪天候の対応など、前例に倣ったとはいえ、大半のアトラクションを中止するという事としていましたので、練習を積み重ねてこられた皆様には披露いただく場を設けるよう、もっと早い段階から計画をして、関係者の方と調整すべきだったものと考えております。

一方で、これからの国民スポーツ大会の開会式、閉会式につきましては、今までのように大規模なものからコンパクトなものへ変化してきているのも事実でございまして、現在、日本スポーツ協会で見直しが検討をされております。例えば昭和60年のわかとり国体の開会式では、役員、選手団、あるいは集団演技をされた皆さん2万3,000名が参加をされて、式典時間が2時間45分行われております。これに対しまして、来年開催の青森県では、見直し提言も踏まえまして、開会式を屋外での2万人規模から屋内での3,000人規模に縮小されるよう変更されておりますし、令和11年の群馬、令和13年の奈良県についても屋内開催の方向であると伺っております。

本県でも令和15年の開催に向けまして、国スポ見直しの議論を踏まえ、天候に左右されない屋内

での開催を含め、大会に関わる多くの皆様に納得いただける形で開催できるよう検討を進めていきたいと考えております。仮に屋外とする場合においても、今回の反省を踏まえまして、荒天により児童生徒の出演機会を中止せざるを得ない場合については別途披露の場を設けることも検討していくよう考えてまいります。

次に、県民の機運醸成について、補足の答弁をさせていただきます。

ねんりんピックでは、開催2年前から本格的に活動を開始しておりまして、節目となります500日前、150日前、100日前、1か月前などのイベントや広報キャラバン隊によるPRのほか、市町村でのお祭りとかイベント、プレ大会等で積極的にPRしてまいりまして、会期が近づくにつれて機運は高まっていったというふうに考えております。

大会を支えていただいたボランティアについても、社会福祉協議会にボランティアセンターを設置していただき、募集や育成の研修など御協力をいただきました。その結果、中高生からシニアまで、延べ1,862名の方に大会補助等のボランティア業務に従事いただきました。

また、県民一丸となり、高校生をはじめとする花いっぱい運動であるとか、クリーンアップ大作戦というお掃除ということなど、ようこそようこそ鳥取県運動を展開していただき、本県らしい温かいおもてなしの心で来場者、選手団の皆さんを歓迎した結果、多くの感謝や喜びの声が寄せられたところでございます。

令和15年の国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会に向けましては、アスリートファーストを軸としまして、先ほどのねんりんピックのレガシーを継承しながら、行政、競技団体、宿泊、交通関係者の皆さんをはじめ、ボランティア、住民の方々を含めて県民が一丸となった大会となるよう、支えるスポーツの体制を検討していくよう考えております。

大会機運の醸成をする愛称であるとか、スローガンであるとか、マスコットキャラクターの募集とか作成につきましては、見直しの項目には現在ございませんけれども、できるだけ早期に募集などに着手するよう考えているところです。

ただ、令和9年5月にワールドマスターズゲー

ムズ関西大会を控えておりまして、その機運醸成と重ならないように、少し配慮させていただきながら、適切な時期に愛称、マスコット等を県民の皆様にお披露目できるよう、機運醸成専門委員会において準備をしまいたいと考えております。

○議長（福田俊史君）足羽教育長

○教育委員会教育長（足羽英樹君） 前住議員の一般質問にお答え申し上げます。私には、国民スポーツ大会に向けて、選手指導者の教員採用という観点ではどうかというお尋ねをいただきました。

前回、昭和60年のわかとり国体のときには、選手あるいは対策強化本部が教育委員会内に設置をされ、当時の教育長が本部長として選手強化も含めた採用等も含めて、取組を進めてまいりました。当時ちょうど私は大学4年生で、次の年の教員採用に向けて東京で奮闘しておりましたが、数年前から向こう10年は体育の教員は多分採用がないというふうに言われていたとおり、体育系の教員を中心に、選手強化が進められていた状況でございました。私はそれゆえ体育を諦めて、国語の教員を選んだ、そんなこともありましたが、それぐらい県を挙げ、そして体制整備に努めていたのが当時だったなというふうに思っております。

それ以降、大きく学校あるいは教員を取り巻く環境も変わってまいりましたし、平成19年の法改正によって、このスポーツ振興とか、あるいは競技力向上といった分野についての体制整備もまた変わりました。同時に、学校現場では、今一番大きな話題は、やはり部活動の地域移行は、今は中学校段階ではありますが、当初は高校段階もということでスタートされた、教員にとっての部活動の在り方が今後もやはり継続して議論をされていくであろう、そういう状況が続いております。

あわせて、教員の働き方改革でありますとか、あるいは部活動に関わり方、当時とやはり大きく情勢が変わってきているのが現状かなというふうに思っております。

これまで国民体育大会あるいは国民スポーツ大会を既にもう開催されました県にも状況をお伺いしましたが、いずれももう近年では教員採用で選手強化を図っているというところはほとんどなく、本県でいえばスポーツ課のような、あるいはスポーツ協会が中心となって、非常勤でそうした指導員の方を多数招聘をして取り組んでいらっしゃる

るというのが現状のようでございます。

ただ、本県にもそうしたトップアスリートを採用する教員採用制度は、もう従前から設けており、数は少ないのですが、採用数も出てきているところでございます。私も県のこの会議の一員として、今後、先ほど知事も申されましたが、国の動向をにらみながら、そして県としてどうしていくべきかという議論が進んでいくというふうに思います。その委員の一人として、この選手強化の在り方あるいは採用等についてもまた検討を重ねていくことになろうかと思っておりますので、しっかり向き合ってまいりたいというふうに思います。

○議長（福田俊史君）3番前住議員

○3番（前住孝行君）（登壇・対面演壇）まず、推し活について言及いただきまして、ありがとうございます。私自身もコナンまつりに参加させていただいて、本当に推し活の何か熱量というのを感じさせてもらったということをお伝えしたいなというふうに思っております。

それぞれ御答弁いただきまして、国のほうのワーキングチームが組織されるということで、そこでまた国の様子を見ながらということでの進め方になるということでありました。期限といたしましては、来年に市町村の開催地の決定と、再来年には国の申請ということでありますので、結構時間はあまりないのかなというふうに思ったりもしますので、調整のほうをよろしくお願いしたいと思います。

また、荒天時の対応というようなことも、室内開催も含めて検討していただくということでしたので、ぜひともよろしくお願いします。

また、機運醸成につきましてはですけれども、6月定例会に向けての知事要望の機会に、本当はその同時期でした、布勢のヤマタスポーツパーク体育館のほうで、「わかとり国体～未来につなぐ40年前のあの感動～」の企画展示がスタートしておりまして、私の中ではとてもタイムリーなニュースでありました。こうして県民の機運醸成の一つになっているというふうに思っております。日本海新聞のほうでもそのことの記事を取り上げていただいていたみたいでして、利用者以外の来場者もあるのではないかなというふうに思ったところであります。こうした企画を年度ごとに進めていただけたらなというふうに思っております。

企業連携や採用の件でありますけれども、ねんりんピックでは協賛企業がたくさんあったということでありました。本当にそういうボランティアのほうの協力もあったということで、この協賛される企業が本当に増えれば、よりそういった協賛金にもなりますし、ボランティアの協力もより広がってくるのではないかなというふうに思いますので、進めていただけたらというふうに思います。

また、教員採用のほうはなかなか今はされていないということでしたけれども、魅力のある優秀な指導者というのがおられると、やはり県外からも選手というか、そういった方が来るのではないかなというふうに思います。昨年でしたけれども、城北高校の陸上部の先生の話もあったと思いますけれども、そういった優秀な、魅力のある指導者というのがもし採用できたらいいのになというふうに思ってたの質問でありました。

それでは、追及に入りたいというふうに思います。

開催種目についてでありますけれども、国スポの正式種目の実施は難しい町村も出てくるのではないかなというふうに危惧しております。例えば地元若桜町では、40年前も何も実施されませんでした。開催条件の緩和をしてもらって、できるとしたら山岳競技、冬季のアルペン競技、クロスカントリィ競技ではないかと考えております。最南端での完全国体の実施を目指すのであれば、早くから準備しないといけません。

また、施設を改修してと言われるようなら、とてもできないよという町長の意見も聞いております。一方、全国障害者スポーツ大会というのも同時開催されますので、そちらの種目であれば何とか実施可能であるという町村もあるのではないかなというふうに考えます。うちの町は何もとて開催できないよではなく、この種目なら何かできそうだなというようなアプローチをしていただいて、全県挙げて取り組めるようにしていただきたいと考えますが、知事の所見を伺います。

○議長（福田俊史君）答弁を求めます。

平井知事

○知事（平井伸治君）（登壇・演壇）重ねて国スポにつきましてお尋ねがございました。

先ほども申しましたが、市町村の実際やれること、やりたいこと、これと上手に組み合わせたい

く作業を恐らく来年度1年間かけてやることになると思います。そして、その翌年に中央のスポーツ団体、種目団体が来て、それでいろいろとそこでまた指導があったり、それから適地かどうかということと判定するわけです。その後、令和10年度のちょうど今頃に申請という行為がなされて、最終的に確定するのですが、ちょうど今、今年国スポにつきまして、こういうタスクフォースが6月3日の委員会で決定して立ち上がるということになりまして、これがやるのは多分今年度、今年、年内かもしれませんが、多分中心になって、だから我々はそういう意味ではラッキーで、来年度1年間、実はその種目合わせ、選ぶことができる猶予ができると思っています。

これを上手に生かして、議員が今おっしゃいましたけれども、なかなか正規種目は難しいかもしれないが、そのほかのものはあり得るのではないかとということもあると思うのです。前回のわかつり国体のときは、そういう正式種目ベースでは、若桜谷のほうは結局、若桜町、それから八東町、船岡町、いずれもやっていません。それで何をやったかという、郡家のほうのホッケーの支援に大会前から、準備段階から加わって、要はあそこを挙げて、みんなで手伝って郡家のホッケーをやったというのが実情だそうであります。

事ほどさようで、必ずしも全ての市町村が参画できたわけではございませんでした。ただ、今19の市町村に市町村の数も減ってしまっていて、そこと種目数を考えれば、ある程度のことはそれぞれの市町村でもやっていただける余地は出てきているのかなと。

それで、例えばデモンストレーション競技であるとか、公開競技であるとか、そういういろんなタイプがあるわけですね。国スポの場合、実際に点数を競い合ってきたような、そういうもの以外のいろんな種目でスポーツツーリズムのように来ていただくということはあると思います。現に今回、国スポが初めて佐賀でありましたけれども、例えばウォーキングだとか、滝登りだとか、そういうちょっとスポーツなのかなという、少なくとも競技スポーツというレベルとはまた違うものもやってしまっていて、そういうデモンストレーション競技なども含めれば、いろんなアイデアでそれぞれの市町村に参画していただくことは可能かなと

いうふうに思います。

先ほど申しましたが、ちょっと国のほうの種目の扱いの仕方とか、それから、競技施設のクライテリア、どの程度のものが必要ななどがその決定要因になってきますので、そういうものを見定めながら、市町村と最終的に詰めの作業を新年度いっぱいやってまいりたいと思います。

○議長（福田俊史君） 3番前住議員

○3番（前住孝行君）（登壇・対面演壇）来年1年かけてということで、そのデモンストレーション競技が公開競技なら、本当にできるようになるのではないかなというふうに思いますので、ちょっとアプローチしやすいような声かけをしていただけたらというふうに思います。

では、続きまして、施設整備について追及させていただきますと思います。

各競技団体がこの機会を機に、施設の機能をできるだけ向上させたいというふうな思いで、要望合戦になることと思います。昨年度の地域県土警察常任委員会の県外視察で、佐賀の国スポ・全障スポの状況を聞かせていただきました。その後の常任委員会で、安田元常任委員長の意見に大変共感いたしましたので、質問させていただきたいと思います。議長の許可をいただきましたので、スライドをお願いします。

この写真は、佐賀国スポの閉会式をされたSAGAアリーナになります。8,000人収容できるSAGAアリーナは、国スポのために造ったのだと思います、その後の利活用の状況を伺うつもりで行きました。その説明を聞くと、国スポのために造ったのではなく、SSP構想に基づいて中長期計画で建設されたとのことでした。SSP構想とは、SAGAスポーツピラミッドの略で、スポーツをする、育てる、見る、支えるといった多様な楽しみ方ができるスポーツ文化の裾野を県民みんなで広めるとともに、トップアスリート育成を目指す取組で、構想どおり、全障スポ後もバスケットリーグの本拠地でもあったり、有名な歌手のコンサートも開催されたりしています。

スライド2をお願いします。これがSAGAアリーナの内覧の映像です。コンサートといえば福岡に行かないといけなかったのが、佐賀でコンサートができるようになったということで、県民からも高評価を得ているということでした。ス



スポーツだけでなく、文化的にも活用できる施設として、佐賀に新しい文化が生まれ、若い世代も喜んでいるという説明を受けました。

冒頭の推し活の話にもつながりますが、鳥取県が女性や若者に選ばれる地域にするためには、ビッグなアーティストやスポーツゲームが鳥取でも開催できるようにすることで、ふるさとを離れる必要がなくなり、都市部への憧れも薄れてくるのではないかと思います。国スポが開催される契機に、こうした様々な活用に利用できる施設の中長期的な計画について、部局を越えた視点で整備を考えていくべきだと考えますが、知事の所見を伺います。

○議長（福田俊史君） 答弁を求めます。

平井知事

○知事（平井伸治君）（登壇・演壇）重ねて、佐賀を例に取られながら、施設整備につきましてお話をいただきました。これは恐らく開閉会式をどうするかと、かなり大きく関わるテーマにもなるのかなと思います。

それで、実は今の国スポの基準をそのまま引用すれば、開会式をやる場所は3万人の観客がいなといけない。それだけのものを用意する。そこにロイヤルボックスとか、実はそうしたいろんな基準も組み合わさってしまっていて、なかなかクリアするのは大変なわけでありまして。私どももJリーグの関連で、いつも当時はああだこうだやりましたけれども、観客席数はどうだとか、そういうような基準で振り回されるわけです。ここを緩和しようという動きが今、出てきています。

だからこそ、群馬では1万人を超える、やはり大きなアリーナを造ってしまっていて、ここでやるのだとか、また、奈良県もついこの間でありまして、そういうアリーナの建設というのを表明されました。奈良の場合、実はいろんな公共施設の設置問題があって、前の県政から引き継ぐときに見直しがかかっているのです。ちょうど西尾県政から動いたときと同じようなことが今起きてしまっていて、その関係でこのたびその議論の末に、そういうアリーナ構想というのが出てきています。それで、代わりにやめる話もいっぱいあるということですね。そういうようなことを今されていて、そうしたところが開会式会場として使えるのではないかなというふうになってきています。

今、全国でもそうしたアリーナ的なものは、佐賀もそうですけれども、Bリーグ、バスケットボールの関係で、各地に同じような建設が進んでいます。だから、スサノオマジックで松江市もそのアリーナをどうするという問題が大きくクローズアップされたことは記憶に新しいところでございまして、そうしたことが全国各地で起きていて、そういうものが出来上がってくる中で、そういう会場を多目的で使う、開会式にも使うというようなことが構想され始めているわけでありまして。

こういうようなことはいろいろと関係者と来年度いっぱい大きな方向性を出していく中で議論されていくべきことかなと思います。ですから、今結論めいたことを申し上げるのは、むしろ自由な議論を妨げるかもしれませんので、控え目にお話を申し上げたいと思いますが、ただ、例えばこのたび起工式がありましたが、米子アリーナが今、米子市で建設されます。東山の運動公園の中で建設されるのですが、これは常設だとか仮設だとか、いろんな座席がございましてけれども、マックスでは4,000人規模のそうした観客席が用意できるということでありまして。こういう大規模なアリーナも本県でも初めて整備をされることが決まっております、令和9年度にオープンしようとして今、着工に入ったということでございます。こんなようなことをいろいろと頭に入れながら、みんなで議論していくということになるのかなと思います。

議員もおっしゃいましたけれども、佐賀は佐賀のやり方があったのでありましようが、やはり施設整備はかなり大きな投資になります。それに向けては当然経費も大きくかかるわけでありまして、最近も本県でも美術館だとか、そうした議論でかなり議場も、住民の皆さんも盛り上がった熱気のある議論をすることになりました。やはりこうしたことは、そういう様々な構想の中で、国スポがあるからこれを造るのだみたいなことでは多分なくて、どのような施設が例えば公共施設の再配置の中で求められ得るかということを議論していくのだろうというふうに思います。

そんな意味で、ただこの国スポがいずれ令和15年にある、こういうような節目に向けて、新年度その会場も含めて議論を進める際に、そうした大がかりな話につきましても議論の余地は十分にあるのかなというふうに思っております。

○議長（福田俊史君）3番前住議員

○3番（前住孝行君）（登壇・対面演壇）本当に夢も希望もないような話はされないと思っていたとおりで、知事の優しさを感じさせていただきました。

私も若くない世代になってきましたが、若者世代の声を届けようと町議会議員時代に奮闘していた者として、正味の話、こういった夢の、希望の持てる政策が議論されることで、若者の関心を引くのではないかなというふうに考えます。可能性はなくなるという答えだったとして受け止めたいというふうに思っております。

先ほど知事の答弁の中でもありましたが、教員を私自身、諦めたときに、2か月間勤務させていただいた鳥取産業体育館屋内プールの考え方について、常任委員会の中でも川部委員の発言もありました。実際に考えていかなければならないことというのは現実にもあると思いますので、部局を超えた中長期的な計画づくりを、誰よりも鳥取県全域の状況を把握されている平井知事を中心に計画策定していただけたらというふうに思います。

あわせて、今年開催の佐賀国スポのことですけれども、先ほど知事の答弁にもありました、予算がすごくかかってくるということではありますが、635億円だということだそうです。鳥取県らしいものにしていくなにしても予算がかかるというふうに思われますので、基金の造成というのも必要ではないかなというふうに思いますので、負担の標準化のためにも検討していただければというふうに、よろしくお願いします。

では、教育との関わりについて追及させていただきたいというふうに思います。

8年後となれば、今の小学校4年生が高校3年生になります。この世代の児童生徒が選手としても、支える人としても、大会のキーパーソンになるのではないかなというふうに思っております。また、全小スポも開催されることから、このような大会に児童生徒が関わることで、大会から学ぶことも多くあり、大変有意義な機会になるというふうに考えます。選手一人一人のストーリーや選手を支える器具や装具、競技施設のバリアフリー化など、選手としての育成、また支えるボランティア意識の醸成にもつなげていければと考えますが、学校教育との関わりを持たせることについて、教

育長に所見を伺います。

○議長（福田俊史君）答弁を求めます。

足羽教育長

○教育委員会教育長（足羽英樹君）前住議員から重ねてお尋ねをいただきました。こうした国民スポーツ大会、あるいは障害者スポーツ大会、子供たちが関わることで、子供たちの大きな学び、あるいは成長につながるのではないかと、そういう観点で教育との関わりというお尋ねをいただきました。

議員のほうから、御質問の中で御紹介いただいた、する、見る、支える、そして知る、これは実は学習指導要領の中でも、保健体育の中でこの4観点ということで示され、それぞれの成長段階において子供たちがスポーツをするのはもちろんのこと、また、それを観戦する。そしてまた、大会スタッフとして、あるいはボランティアとして支える。そして、スポーツのよさ、あるいは感動を知るといったことを幅広く多様な観点で学ぶことで、子供たちのある意味スポーツを通した情操を育て、豊かなスポーツライフを育んでいくのだということで規定をされているところでございます。その意味からも、議員のほうから御指摘のあった、こうした大会への子供たちの関わりは本当に非常に重要な意味を持つことを私も感じております。

そもそもスポーツが本当に人々に大きな感動、あるいは議員のほうは夢という言葉もおっしゃいましたが、そうした感動体験をもたらすものであることは、もちろんアスリートの真摯な、そしてひたむきな勝利に向けた努力、その結果の勝利であったり、あるいは敗者となったときの涙であったり、そうした場面が多くの人々に感動をもたらすこと、これはもう言うまでもないことかなというふうに思います。それを子供たちが支える、あるいは見る、知る、様々な観点から関わっていくということは、子供たちにも大きな影響をもたらすものだろうなというふうに思います。

この夏は、中国ブロックで全国高校総体インターハイが開催されます。いよいよ今日をもって、45日前となりました。7月30日の自転車競技を皮切りに本県でも5競技6種目が開催されますが、選手として出場する選手たちが今その大会に向けて頑張っておりますが、一方で、高校生のスタッフもそれを支える側に当たって、先日、4月

22日には100日前の開催イベントを開催したり、あるいは選手激励のポスターを描いたり、様々な形で関わっているところがございます。ちょうどまた昨日は北栄町で、すいか・ながいも健康マラソンがありました。4,000人を超える来客、来場者に対して、地元の鳥取中央育英高校の生徒たちが、スイカのあっせんであったり、あるいは休憩所のボランティアだったり、多くの高校生が関わって支えていた、そんな風景も見られました。ぜひこうした形で、子供たちにとってスポーツに関わる機会をたくさんもたらししていく、これは学校教育の大きな使命だろうと思っておりますので、議員御指摘のとおり、子供たちにも幅広く影響力のある、そんな大会に向けて取組を進めてまいりたいと思います。

○議長（福田俊史君）3番前住議員

○3番（前住孝行君）（登壇・対面演壇）インターハイに向けても、高校生との関わりのこと、よい事例を教えてくださいました。

私の同級生で、アルペンスキーをやっていた選手で、高校3年生のときにもう下半身不随になった谷口彰という選手がいます。スキーが好きで、そうなるからもうずっとスキーを続けて、車椅子でのスキー競技というのを続けて、パラリンピックのアルペンスキー選手になった選手がいます。そういった障害を乗り越える姿というのを子供たちに伝えてほしいなということで、若桜学園のほうでも講演をしていただきました。そういった、もう本当に障害を乗り越える姿とか、様々な視点で教育に関わることができるのではないかなというふうに思いますので、そういった機会をたくさん子供たちに与えてあげてほしいなというふうに思っております。

最後になりますが、先ほど教育長も言われましたが、今年は「開け未来の扉中国総体2025」で5種目、2年後のワールドマスターズゲームズ2027関西で4種目が本県での開催の予定となっております。様々なスポーツイベントの機会を捉えて、機運醸成を図っていただき、また、必要な施設整備、大会運営の準備を中長期的計画で進めていただくことについて、また、先ほどちょっと基金造成のことも申しましたが、改めて知事の所見を伺いまして、最後の発言といたします。

○議長（福田俊史君）答弁を求めます。

平井知事

○知事（平井伸治君）（登壇・演壇）議員のほうから重ねてのお尋ねがございました。ぜひ様々な観点で若い方々が将来に向かって夢が持てる、そういうものをスポーツの世界であるとか、あるいは教員の要請等も含めまして、ぜひとも進めていければありがたいなというふうに思います。

議員におかれましても、例えばプールのほうでお仕事をされたという経験もありました。これからちょっと近い将来見渡してみると、そうやって、例えば公共施設をどうするかということと、それから人材育成やスポーツの振興をどうしようかと、いろんな意味で絡まってくると思うのです。必ずしも米子の問題だけではなくて、鳥取も含めて、ではどこで県が中心となるスポーツ施設、プールについては考えるのかとか、それに例えば市町村がどう絡んでくるのかとか、あるいは人材育成、その間の競技の場、そういうものをどういうふうにしていくのか。そこには学校という機能をどういうふうに組み合わせていくのか。それから地域としてもそれをバックアップするような、例えば国スポを一つの契機として地域振興に向かっていくのか。そういうのをいろいろと考えていくと、これから大体、向こう10年ぐらいの間に国スポというものを挟みながら鳥取県の若い力を生かしていく、育てていく、それがテーマになってくるのかなと、大きな一歩になるのかなというふうに思います。それが様々な県や市町村の事業とも組み合わせっていくのかなというふうにも思われます。

国体の歌で、よくみんなで合唱をしましたが、最近はどうもやらなくなったように思いますが、「若い力」という歌があります。「若い力と感激に 燃えよ若人胸を張れ」と、そういうふうに結ばれるこの歌を歌いながら、みんなで国体の場集ったわかとり国体、そして数々の思い出、こういうものをまた我々も夢を追いかける。それがこれから向こう10年ぐらいのテーマではないかと思っております。

○議長（福田俊史君）暫時休憩いたします。

午後の本会議は13時20分より再開いたします。

午後0時21分休憩